

第 20 回湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会報告

日時：令和6年5月20日（月）13:30～15:30

場所：長浜市役所本庁舎1階多目的ルーム1，2

参加者：協議会構成員

本協議会は、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築するため、多様な関係者が連携して、湖北圏域（長浜市、米原市）における洪水氾濫ならびに土砂災害による被害の軽減に資する取組を、総合的かつ一体的に推進するための協議を行う場として設置しています。

【主な議事】

- (1) 協議会規約の改正について了承された。（改正事項：組織改編により、砂防課が流域政策局砂防室に変更になったことに伴う修正等）
- (2) 令和5年度の取組報告
 - 水害・土砂災害リスクの高い箇所に立地している要配慮者利用施設の避難確保計画は実現可能か検証が必要であり、その結果、市町が福祉関係部局や消防等を含んだ多機関連携型タイムラインを作成することにつながるとの意見を受け、個別ワーキングや担当者会議で情報共有を進め運用を行えるようにすることとした。
 - ダムの管理演習を年1回実施しているが、ダム放流通知に関する滋賀県土木防災情報システムの使い方について、市町と連携を密にし、訓練内容の向上を図ることとした。
 - 防災リーダーや地域や避難行動要支援者、福祉専門職をつなぐインクルージョン・マネージャーの育成について、複数部局や市町が連携して取組を進めており、今後も連携を図りながら進めていくこととした。
- (3) 【情報提供】
 - ① 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について（滋賀県流域政策局）
 - 避難を開始するタイミングの項目について、「緊急安全確保」の情報を受けてから避難する方が約17%いることが課題との意見があった。
 - ② 防災気象情報の改善（気象庁彦根地方气象台）
 - 情報をもとに各機関で連携し、避難に活用してほしいとの意見があった。

【議事内容】

1. 開会

■会長代理の滋賀県流域政策局 辻局長の挨拶

近年、水害の頻発化と甚大化、激甚化に伴いまして、毎年のように水害が全国各地で発生している状況です。

滋賀県におきましても、昨年は大きな被害はありませんでしたが、長浜市では令和4年の8月4日、5日にかけて大雨により高時川沿川で氾濫が発生しまして、家屋や農地、土木施設等に甚大な被害が生じたことはまだ記憶に新しいところです。

本協議会の取り組み方針では、どのような洪水からも命を守ることを最優先として、自助と共助が最大限発揮されるよう自ら行動し、地域の防災力を高め、社会経済被害を最小化するための取り組みを実施して、水害・土砂災害に強い地域を目指すこととしております。

これまでも委員の皆様に取り組みを進めていただいているところでございます。本日は、長浜市、米原市および国、県の行政機関に加えまして学識者の方もご出席いただいております。

水害・土砂災害の防止について皆様と一緒に考え、今後の取り組みにつなげてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



2. 議事

(1) 協議会規約の改正について

湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会規約(改正案)について、事務局より説明があり、案のとおり承認されました。

(2) 令和5年度の実績報告について

取組方針に基づき令和5年度に実施された取組について、各機関より報告がありました。

質疑応答・意見交換

■避難確保計画の作成について

- 特に水害・土砂災害リスクが高く、避難確保計画が未作成の要配慮者利用施設について、長浜市と米原市は該当がなかった。ただし、作成済みであっても危険な箇所となる施設もあると思われる。そのような施設が作成した避難確保計画が実現可能なものなのか、さらなる手助けが必要となるのか検証できるとよい。避難確保計画の検証をすることで市町の動きが明確化され、結果的に多機関連携型タイムラインの作成につながると思う。
(多々納教授)

⇒タイムラインについて、土木事務所のは運用できているものではないので、ダム of 緊急放流や具体的な事象を個別のワーキングや担当者会議の場で情報共有を進めていきたい。(流域政策局)

- 防災危機管理局から地区防災計画策定支援と個別避難計画策定支援の話があった。地域の防災リーダーの育成や地域や避難行動要支援者、福祉専門職をつなぐインクルージョン・マネージャー研修会をされており、こういった連携はどんどん進めていくべきだ。

- 流域政策局と長浜市、米原市が浸水警戒区域指定に向け取り組んでおり、多くの地域で浸水警戒区域指定が行われている。しかし、住民から浸水警戒区域指定を受けてよかったと思ってもらえなければならない。指定後も、フォローアップされていたため災害時に住民の方に避難しやすかったと思ってもらわなければならない。情報提供などを行い、地域でより実践的な避難訓練が出来るよう進めていってほしい。(多々納教授)

⇒浸水警戒区域指定については、指定することでどのような良い面があるのか説明を進めていくとともに、指定済みの箇所についてもフォローアップを行っている。昨年についても県内各地の指定済み箇所の住民に集まっただき、活動の発表の場を設けた。そういった場で、高時川の指定済み箇所の住民の方から、実際の災害時に指定前に作成した防災マップやタイムラインに従って避難できたという話をいただいた。こういった事例を他の地域で指定を行う際も情報共有し指定することのメリットを説明していきたい。(流域政策局)

⇒流域政策局が避難確保計画のために地域に入っている機会は極めて貴重と認識している。今後も部局ごとに縦割行政になることなく連携して進めていきたい。(防災危機管理局)

⇒ホットラインで多機関と連携している。引き続きこうした連携を行ってほしい。(長浜市)
- 今回から姉川ダムの事前放流の基準降雨量が引き下げられたことから、事前放流の通知の頻度が増えることが考えられる。また、姉川ダムの異常洪水時防災操作などがあれば、周辺住民に避難を呼びかける必要がある。滋賀県土木防災情報システムでそういったダム放流に関する通知がなされるということは、市町は把握しているのか。使い方が分からなければ、県に説明を行ってもらえばよい。(多々納教授)

⇒年1回ダム管理演習を行っており、今年度は5月8日と9日に行った。事前放流から緊急放流に至って洪水が終わるという1連の訓練を市町の方を含めて行っている。ただ、年1回であるので、市町の方全員が携わっているのか不安なところがある。市町の方と連絡を密にし、訓練の内容や訓練の密度をさらに向上させていきたい。(流域政策局)

⇒先ほどのダムの話であるが、こういった新しいシステムの通知機能を付けていただき運用が始まったので、本年度からしっかりと運用し地元の方とも共有をして取り組んでいきたい。米原市としては、地域に防災のノウハウを持った防災リーダーが満遍なくいることが地域の防災力が高まると考えていることから、今年度はそういった人の掘り起こしや登録制度の作成により、地域の防災力を高め、地域と連携していきたい。(米原市)

■多機関連携型タイムラインの作成について

- 水害はタイミングが重要と感じることが多い。時間に合わせてどこどこが連携するのか、どのような情報が欲しいなどを調整されていないと災害時はうまく対応できない。様々な災害の状況に合わせて1つのタイムラインを完全に固定してしまうことは非常に難しいので、シチュエーションに合わせてタイムラインを作成するようであれば良いと思う。(畑山教授)

■浸水警戒区域の取組について

- 実際に作成したマップやタイムラインに従って避難ができたという話もある。区域指定を進める際に情報共有して、このような良い点があるということも説明できれば良いと思う。
(多々納教授)
- 防災マップの更新の頻度がかなり重要。既にできているところに関しても注視してもらいたい。
訓練についていきなり高度な訓練をするのではなく、地域の方も想像できるような訓練から始める必要がある。訓練をしたら終わりではなく、段々ステージを上げていくような形でスキルを上げていくのが必要と思う。(畑山教授)

(3) その他情報提供

① 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について

豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について、事務局より情報提供がありました。

質疑応答・意見交換

- 「緊急安全確保」の情報を受けてから行動しようと思っている方が17%くらいいるのは市にとっては悩ましいと思う。本来であれば「避難指示」で動き始めるか、理想を言えば「高齢者等避難」が発令された時に何かしら動き始めていただくのが望ましい。(多々納教授)

② 防災気象情報の改善について

防災気象情報の改善について、彦根地方気象台より情報提供がありました。

質疑応答・意見交換

- 災害警戒情報や顕著な大雨情報は1時間前や30分前になるとほぼ正確なものとなるので、そこを基準に各機関が連携し、適正な避難が実現できれば良い。(多々納教授)

その他、質疑応答・意見交換

- 河川整備計画に基づく河川改修については引き続き実施していただいていると思うが、河川改修の要望はどこへ行っても強い。ぜひ計画通りやっていただきたいし、早めることも考えて進めていただきたい。

また、重点地区の取組状況について虎姫地区はハードソフト両方の問題があり、特にソフト面ではなかなか進まないところもある。地元説明を丁寧に実施していただいて対策をとっていただきたい。市も要望を受けており、県の方にも相談させていただいているが、虎姫地区を進めることが特に重要と思うので、早期に進めていただくようよろしくお願いいたします。(長浜市長)

→土木事務所としては河川整備を第一に着実に進めていかなければならないと考えている。虎姫地区は田川、姉川、高時川の3つの河川があり、姉川については河川整備計画に基づ

いて着々と進めていかなければならないと思っている。前年度から河口部の築堤の準備工事を進めており、今年度は築堤を来年度にかけて完成できるようにやっていきたい。河口部の築堤ができると川の中の掘削ができるようになる。順次下流から進めていきたいと考えている。河川改修は下流からという原則がありますので、ご理解いただきたい。

また、田川についても計画検討を下流から順次進めていきたいと考えている。補助事業となっていますので、着実に進めていきたい。

高時川については錦織橋、落合町の付近で、堤防強化等を進めている。また今後河川改修の予定もあるので進めていきたい。(長浜土木事務所長)

高時川上流も下流整備を待つことなく、できるところから段階的に整備を進めていきたい。(長浜土木事務所木之本支所)

- ▶ 河川改修が下流からという原則があることは理解しているが、上流に被害がでたこともあり、柔軟に取り組んでいただきたい。

また、虎姫地区は危険な割に防災意識が非常に弱いということがあり、ソフト事業を確実に進める必要があると思う。(長浜市長)

⇒虎姫地区は現状、虎姫学園での出前講座を毎年させていただいているものの、自治会や個別の地域に入った避難計画等の取組がまだ進んでいない状況にある。昨年8月と今年3月に地域づくり協議会の会長へ案内のチラシは配らせていただいているものの1歩進んだ取組はできていない状況である。長浜市独自で地域づくり協議会の方へ出前講座等をしていただいているとの情報も聞いており、連携して進めていきたいと思っておりますのでご協力のほどお願いします。(流域政策局)

- ▶ 昨年7月12日に伊吹山で斜面が崩壊し、土石流が発生したことによって下流域の河川や水路の機能を阻害するほどの土砂が堆積した。昨年度は勝山砂防堰堤の土砂を撤去いただき大変ありがたい。引き続きお願いしたい。

また、天野川や浸水警戒区域に指定されている村居田および醒井について、護岸整備や遊水地整備など様々課題があると思うが引き続き整備をお願いしたい。

伊吹北部では県道山東本巣線の全線開通に対する期待が大きいことから、引き続き工事をお願いしたい。(米原市長)

⇒砂防堰堤について、不透過型の堰堤は堆砂することで、河床勾配が安定し土石流を捕捉する機能がある。ただ、過剰に土砂流出すると下流で堆積し危険度が高まるので、状況を確認して対応していきたい。

天野川や村居田、醒井地区については浸水リスクが高く、ハード対策の優先順位としては高い。堆積状況を確認しながら対応を考えていきたい。

山東本巣線について、連続雨量100mm区間内で学識者に確認いただく箇所があり、今年度は対応方針を決めて早急に対応していきたい。道路整備だけでなく県と市の防災部局が連携して孤立期間をできるだけ短くするなど防災面での対応も道路整備と合わせて必要と思う。(長浜土木事務所長)

以上